

■原市之進 志士。徳川慶喜の股肱の臣の一人で、将軍就職に奔走、攘夷派から憎まれ、暗殺された。

はらいちのしん

富籤流行・・1830＝ 水戸藩士原十左衛門雅言の次男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 7歳：

蛮社の獄・・1839＝ 9歳： 藩校弘道館に学び、教授頭取会沢正志斎について経史を修め、従兄の藤田東湖にも師事し、

順天堂始・・1843＝12歳： 早くも講義作文を為し、

阿部正弘首座1845＝14歳：

・・・・・1848＝18歳：

万次郎帰国・1852＝22歳： 江戸に出て、塩谷宕陰・藤森弘庵らに学び、

ペリー来航・1853＝23歳： 昌平饗に入学。ロシア使節ブチャーチン長崎来航の節、川路聖謨らが応接のため出張を命ぜられると東湖の指示で川路の従者として随行。

安政大地震・1855＝25歳： 弘道館舎長、

松下村塾・・1856＝26歳： 水戸城下五軒町に私塾{菁莪}塾を開設、弘道館訓導となり、彰考館編修兼務。“五軒先生”と呼ばれ、水戸学の第一人者となるに至る。

蕃書調所・・1857＝27歳： 訓導職のままで小十人組。

五ヶ国条約・1858＝28歳： *戊午の密勅が水戸藩に伝達されるや諸藩への回達を主張、同志を率いてひそかに出府、幹旋に努めた。

安政の大獄・1859＝29歳： 定江戸奥右筆となったが、安政の大獄での前藩主徳川斉昭の水戸表永塾居処罰に伴い、馬廻組に転じて、名を市之進と改め、再び水戸勤務の弘道館訓導。

桜田門外変・1860＝30歳： 藩庁が密勅返納を決議すると、その不可なること十カ条を列举して藩庁に建言。また彰考館編修兼務。

遣欧使節・・1861＝31歳： <東禅寺事件>が起って幕府の攘夷派への圧力が強まると、大橋訥庵らと老中安藤信正の要撃を謀議、

生麦事件・・1862＝32歳： *一橋慶喜に随従して上京、そのまま滞京して慶喜の徳川宗家相続、さらに将軍就職に奔走。

禁門の変・・1864＝34歳： 一橋家に入り、

薩摩藩士密航1865＝35歳： 同家御側御用取扱いを命ぜられ、

大政奉還・・1867＝36歳： *慶喜が将軍につくや、幕臣となり、目付に任ぜられると、一転して兵庫開港を積極的に推進、

明治維新・・1868＝37歳： *このため攘夷派から憎まれ、京都二条の官舎で幕臣鈴木豊次郎・依田雄太郎らに暗殺された。